(別紙)

申立事情説明書

1 申立人について (本件に係る限度でお書きください。)

(1) 申立人の生活状況

同居家族の氏名 年齢、職業	申立人 甲野太郎 55歳 会社員 (△△電気(株) 営業課長) 妻 甲野花子 52歳 主婦 長男 甲野一郎 25歳 会社員 長女 甲野陽子 21歳 大学生
------------------	--

(2) 申立人の主な経歴

生年月日 中学校以降の学歴	昭和42年〇月〇日 出生 昭和58年3月 ××中学卒業 昭和61年3月××高校卒業 平成2年3月 △△大学卒業
婚姻、子の出生、 転居等大きな出来 事を時系列で	平成2年4月 △△電気(株) 入社 平成6年7月 妻花子と婚姻 平成9年9月 長男誕生 平成12年2月 長女誕生 平成15年3月 現在の住所地に一戸建を購入し転居

2 被相続人について (分かる範囲でお書きください。)

(1) 被相続人の主な経歴

出生年月日、場所	昭和32年△月△日 ○○県△△市で出生
小学校からの学歴	昭和45年3月△△市立△△小学校卒業 昭和48年3月△△市立△△東中学校卒業 昭和51年3月県立○○高校卒業 昭和51年4月□□大学文学部入学 昭和55年3月□□大学文学部卒業
職歴	昭和55年4月 県立○○高校教諭 平成30年3月 ××高校教頭で定年退職

病歴	令和元年9月肺ガンに罹患 9月18日から12月10日△△病院入院 令和4年6月1日から同年9月3日同病院入院 令和4年9月×日死亡
家族の死亡（病名） 転居等大きな出来 事を時系列で	昭和61年4月×日 父一郎死亡 平成元年12月 ○○市内に自宅購入（最後の住所地へ転居） 平成5年7月×日 母美子死亡

(2) 被相続人が死亡する前の生活状況

勤務先、仕事の内 容、役職、月収等	××高校 教頭 月収60万円
死亡当時の住居、 同居者	○○県○○市○○3丁目×番×号 なし（一人暮らし）
遺産の処分につい ての意向が分かる ような事情	生前、遺産は太郎が好きなようにすればいいと言っていた。 資料の添付 ☒ 有（資料番号 <input type="text"/> ）

(3) 被相続人の死亡時の状況

死亡原因（病名、 入院の経過など）	令和4年9月×日 肺ガンで死亡 （△△病院 同年6月1日より入院）
看護の実態 （看護者、費用の 負担等）	治療費、入院費は被相続人の費用で清算済み。 病院の完全看護であったが、申立人あるいは申立人の妻が週に2回は病室 を訪れ、身の回りの世話をしていた。 資料の添付 ☒ 有（資料番号 <input type="text"/> ）
葬儀、祭祀の状況 （葬儀及び祭祀の 執行者、墓碑や位 牌の状況、費用の 負担等）	申立人が喪主として被相続人の葬儀を執り行った。葬儀費用50万円は申 立人が負担した。 遺骨は○○寺で永代供養をなし、位牌は申立人の自宅の仏壇に安置してい る。 資料の添付 ☒ 有（資料番号 <input type="text"/> ）

3 特別縁故の内容・程度

- (1) 被相続人との関係（実情をお書きください。親族関係がある場合は続柄もお書きください。）

いとことして長年付き合いがあった。
被相続人の入院時の世話をし、預金等の管理も任されていた。

- (2) 被相続人との生活関係

- 生計を同じくしていた（その時期、期間、生活費の分担状況）。
 生計を同じくしていた事実はない。

資料の添付 無・有（資料番号

- (3) 被相続人の療養看護について

- 被相続人の療養看護に努めた（療養の方法、場所、期間、程度、費用負担など）。
 被相続人の療養看護に努めた事実はない。

令和元年9月頃に被相続人が体調を崩した際には、通院の際の送り迎えをしたり、入退院の手続きをとったりしました。入院中は、少なくとも週2回は見舞いに訪れ、被相続人を元気付けるとともに、身の回りの世話をしていました。また、二回の手術の際には、申立人が保証人となりました。

被相続人は、同年12月に退院し、令和4年6月に再入院するまでの間自宅で療養していましたが、その間、申立人あるいは申立人の妻が2日に1度は被相続人宅を訪れ、身の周りの世話をしていました。

令和4年6月に被相続人が再入院する前に、被相続人から被相続人名義の通帳、印鑑、カード等の管理を任せ、入院代・治療費等はその中から支払っていました。その他の細かい雑費は、申立人が立て替えていました。

資料の添付 無 有（資料番号 ○～□）

- (4) その他特別の縁故に当たる事情について

- ア 被相続人に対して金銭的な援助をした。
 イ 被相続人に対して精神的な援助をした。
 ウ ア、イ以外で被相続人に対して援助をした。

被相続人は、平成5年に被相続人の母美子が死亡して以降は、最終住所地のマンションで一人で暮らしていた。

申立人は平成15年現住所地に転居しましたが、申立人の住所地からは車で10分ほどの距離と近所になったことから、一人暮らしの被相続人との交際がさらに密になりました。被相続人の父母の法事などにも協力していました。

特に被相続人が平成30年に退職して以降は、週に1、2回は申立人宅を訪れ、夕食をともにするようになりました。申立人夫婦は、何かにつけ、被相続人の相談にのり、一緒に買い物に行ったり、旅行をすることもありました。

資料の添付 無・有 (資料番号 ○～□)

- (5) 被相続人の死亡後に被相続人のために行ったことがあれば、その具体的な内容、それに費用が掛かっている場合は負担額をお書きください。

病院から死亡の連絡を受け、死亡届を提出し、死亡に伴う種々の手続を行いました。葬儀は申立人が喪主として執りおこないました。その費用50万円は申立人が支出しました。

資料の添付 無・有 (資料番号 △)